

第1回 議事録

日時：平成30年3月8日（木）10時～12時

会場：日本学術会議6階 6-C（1）（2）会議室

出席：加野、木下、斎尾、田中、都築、中坪、湯川、浅野（web会議参加）、神吉（web会議参加）、小酒井（国土交通省よりオブザーバー参加）、三輪※
（※は議事録担当）

議事内容：

1. 冒頭、分科会世話人の田辺新一先生よりご挨拶と分科会委員長の選出を行い、委員長は木下委員と決定した。
2. 木下委員長より副委員長に水口先生、幹事に斎尾先生、三輪の推薦があり、承認された。
3. 出席者による自己紹介を行った。
4. 委員長より、今期の方針について分科会設置提案書（資料2-1）および過去の提言・報告（資料2-2）を元にこれまでの経緯と共に説明がなされた。特に保育環境の変化、農村部の環境の深化、一方で地方創成による好事例、SDGsといった新しい潮流なども踏まえ、提言以降10年間の検証、子どもの成育環境について特にエビデンスベースで空間に関する事柄を軸に探求していくことを目的とすることを確認し、意見交換を行った（主な意見は以下の通り）。
 - ・ 保育所が待機児童対策で数を揃えることに主眼で、園庭がない、近くの公園への道が安全でない、狭い公園に多くの園からの園児が集中するといった問題。幼稚園はkindergarten というように庭が重要。保育所も同じように園庭が大事。
 - ・ 地方や中心市街地の空洞化で児童数が減り、統廃合で子どもの遊びに影響。地域、自治体で差が生まれている。複合化で環境がよくなったところとそうでないところ、小中一貫校など多様化、差も広がっている。
 - ・ リスキープレイ、泥遊びなどへの保護者の理解、意識に課題。安全性と心身の発達への影響など、エビデンスが必要。
 - ・ 家の前で遊べる道の提言、静かな環境を求める高齢者との相克をどう克服するか。
 - ・ 住宅など事業者の意識啓発について、インセンティブを設けて誘導する方法など、施策に展開できる検討

・

5. 資料3を元に今期のスケジュールを確認した。
 - ・『関係省庁施策上の課題 話題提供』とあるが、関係行政機関として自治体も含める。
 - ・ 「遊びと〇〇」とあるが、そもそも「遊び」への共通認識がそれぞれ異なっている可能性もある。「遊び」とはなにか、遊んでいる状態の例など、主体性、チャレンジ、内発的好奇心などといった観点も含めてその再評価、再提起、遊びをどう保証するか随所で整理が必要。
6. 特任連携会員として、仙田満東京工業大学名誉教授（元学術会議会員、前連携会員）が推薦され、承認された。
手続き上5月任命になるため、5月後半でなく6月前半であれば仙田先生の参加も可能になる。（事務局）
7. 全員のメールを共有し委員長より直接発信できるよう、事務局より再度確認する。

以上